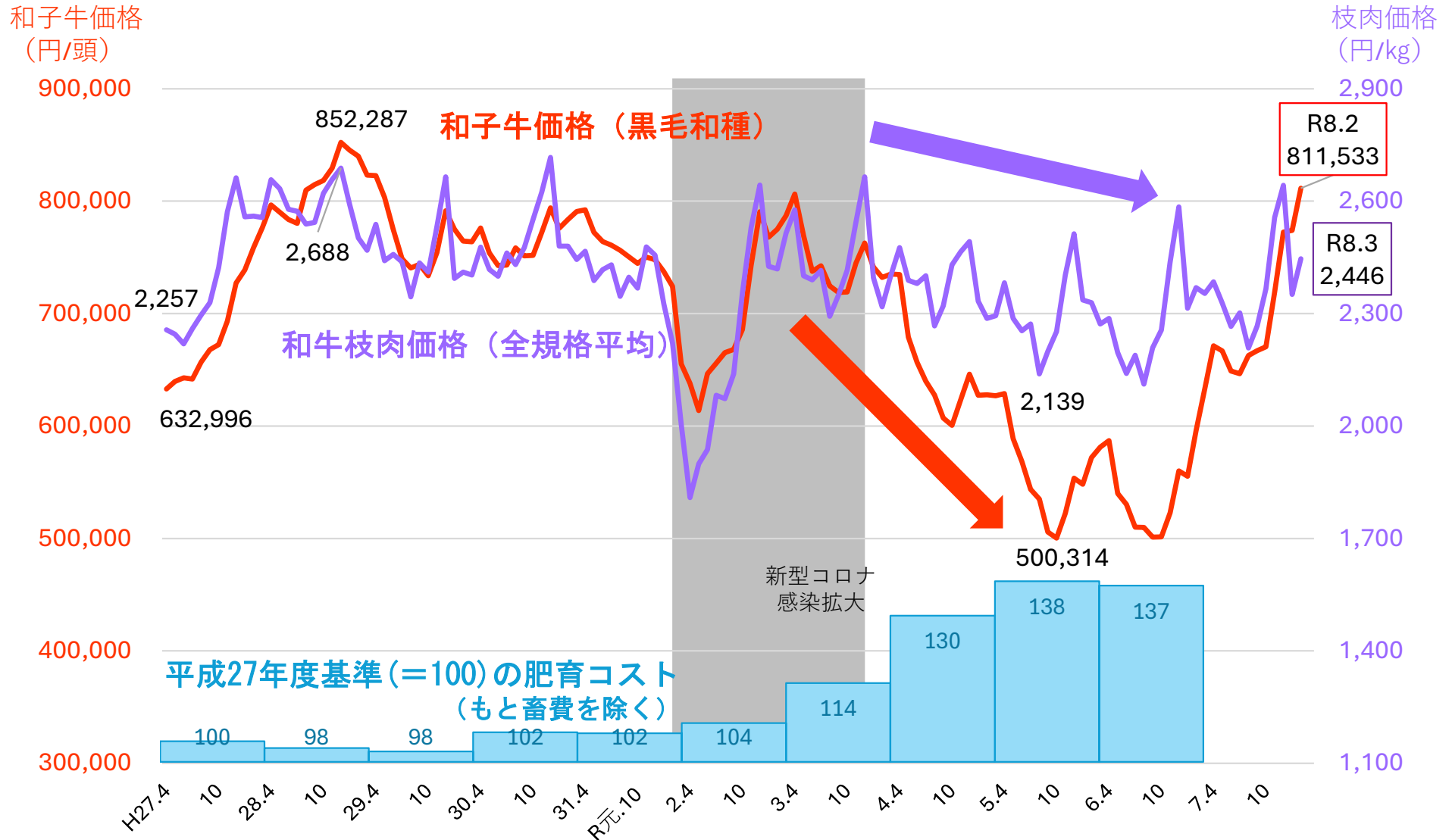


和牛肉の需給動向

令和8年4月版

和子牛取引価格と和牛枝肉価格の動向

- 和子牛価格と和牛枝肉価格の変動には、一定の連動性が見られる。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大後、和子牛価格、和牛枝肉価格はともに下落したが、直近は回復。



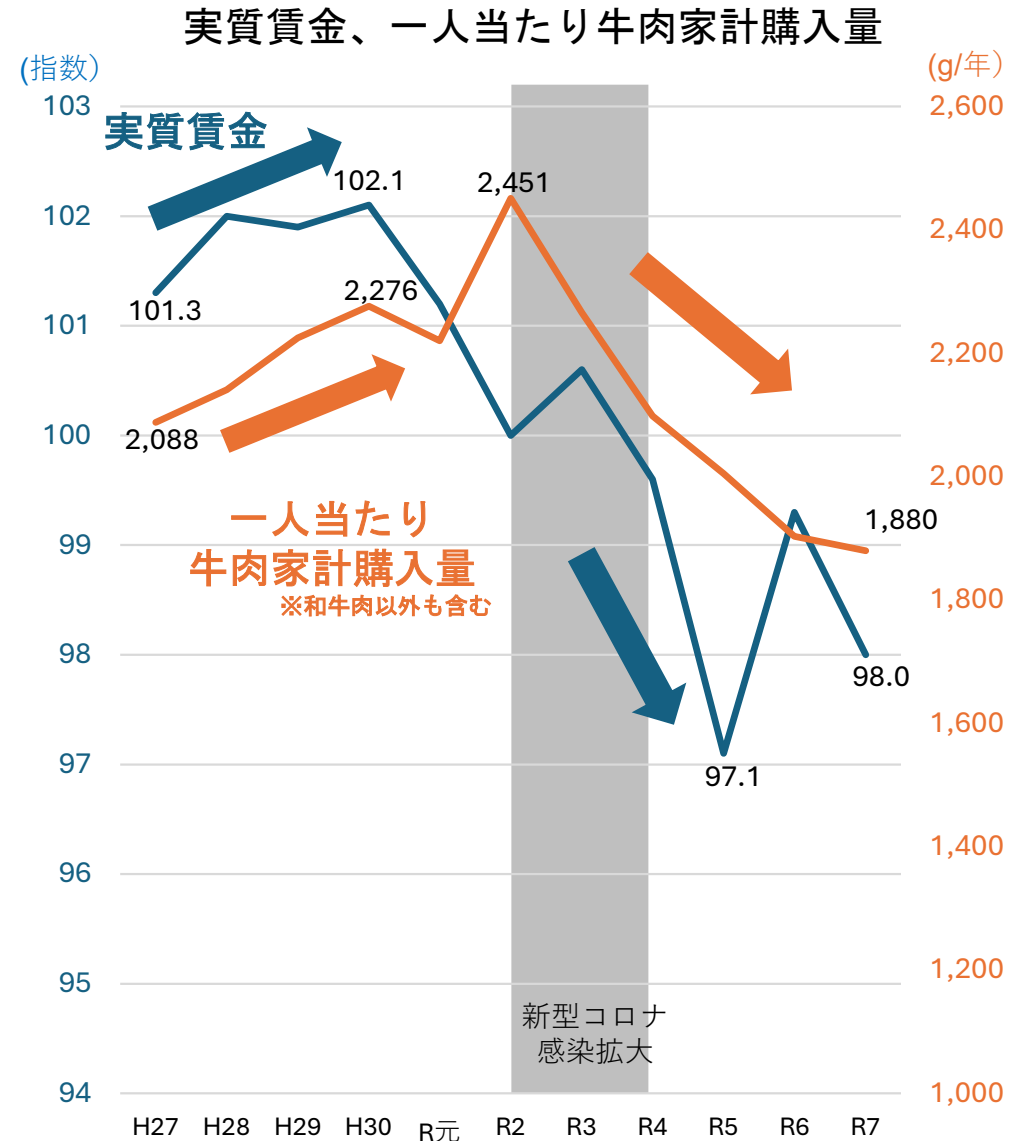
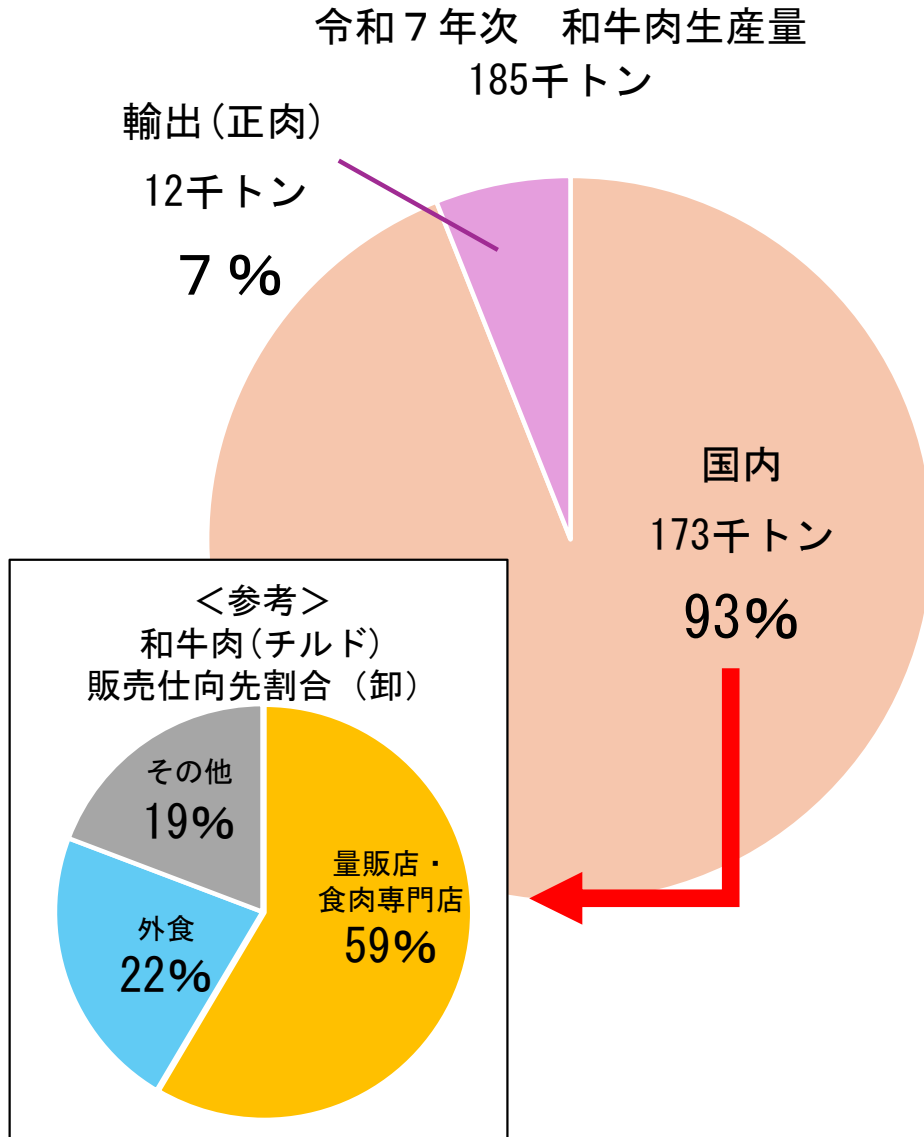
資料: ALIC「肉用子牛取引情報」(令和7年12月以降は速報値)

農林水産省「畜産物流通統計」(中央10市場計、令和8年3月は速報値(食肉鶏卵課調べ))

農林水産省「生産費統計」(去勢若齢肥育牛の支払利子・地代算入生産費からもと畜値を差し引き、平成27年度コストに対する増減率を算出、令和元年度以降は年次ベース)

和牛肉の仕向け先、実質賃金と牛肉家計購入量の動向

- 和牛肉生産量のうち、国内仕向けは93%。国内仕向けのうち、量販店等向けが59%で最大。
- 実質賃金と一人当たり牛肉家計購入量の変動には、一定の連動性が見られる。
- 近年は実質賃金の下落に伴い、一人あたり牛肉家計購入量も下落傾向。



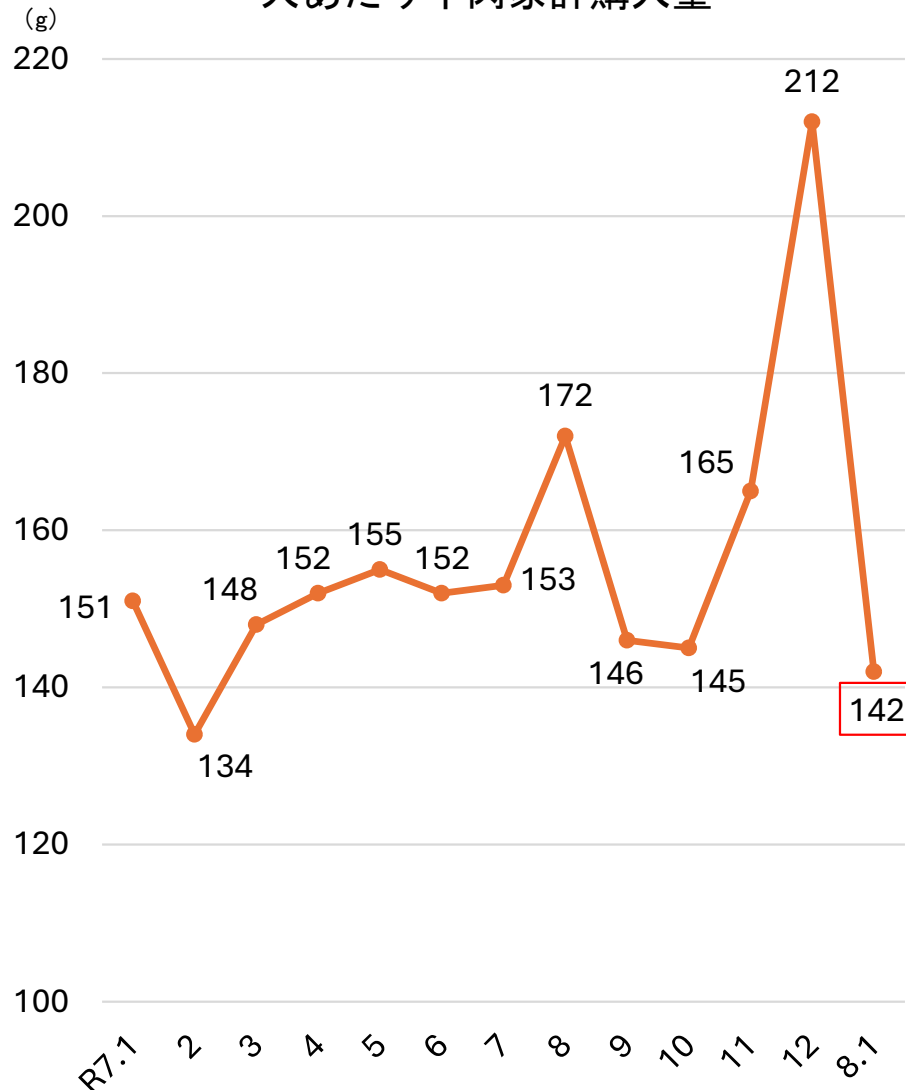
資料:農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」
ALIC「食肉販売動向調査結果」(2024年度上半期)

資料:厚生労働省「毎月勤労統計」全国調査、常時5人以上を雇用する事業所、現金給与総額、年次総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数、年度、R7年度は推計値

直近の牛肉の家計購入量等

- 一人あたり牛肉家計購入量は、年末年始需要のある12月に顕著な増加が見られる。
また年度末からGWにかけての時期や、夏休み・お盆の時期にも小幅な増加が見られる。
- 都市別の牛肉消費は西日本で多い傾向があり、多い地域と少ない地域で3倍程度の差が見られる。

一人あたり牛肉家計購入量



資料：総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数

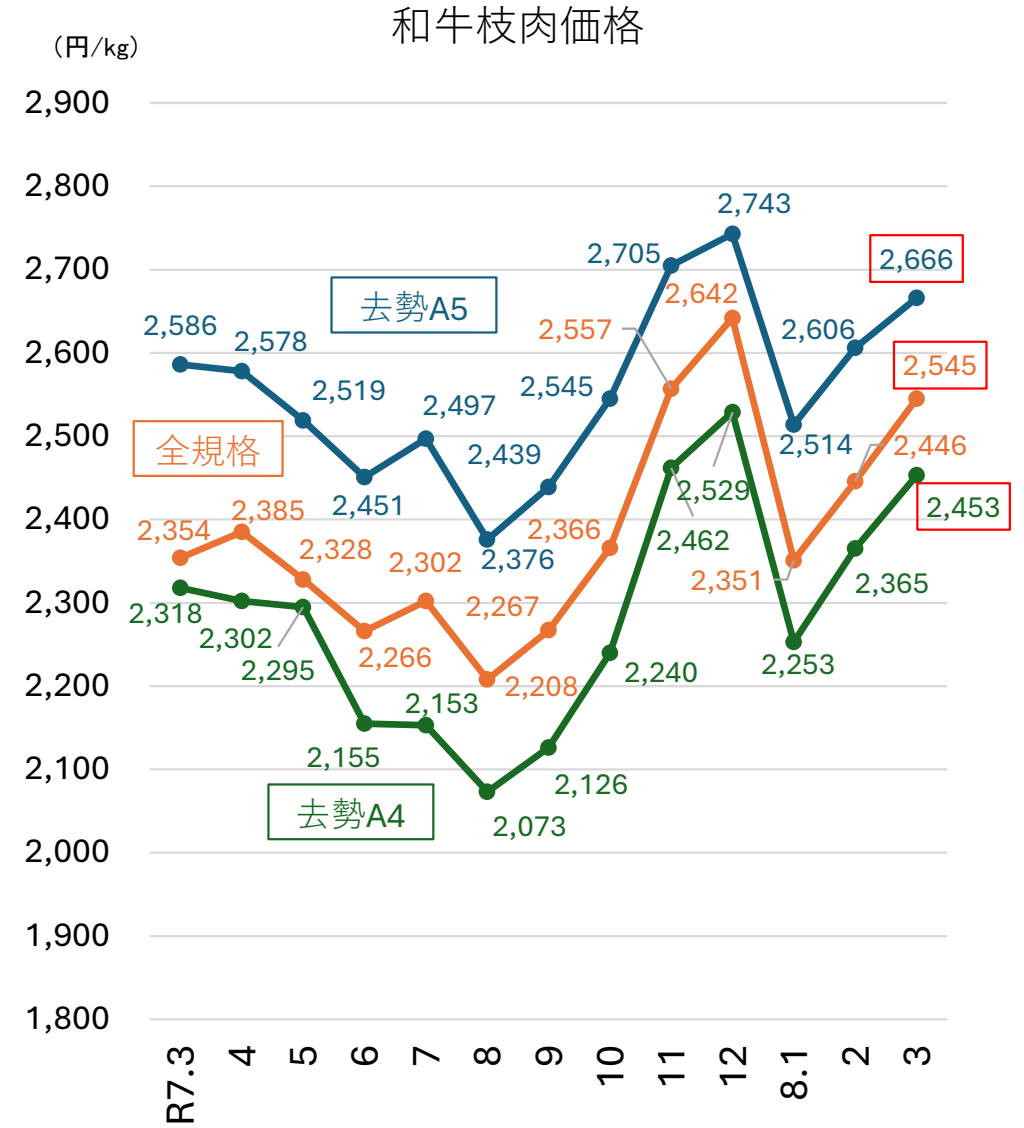
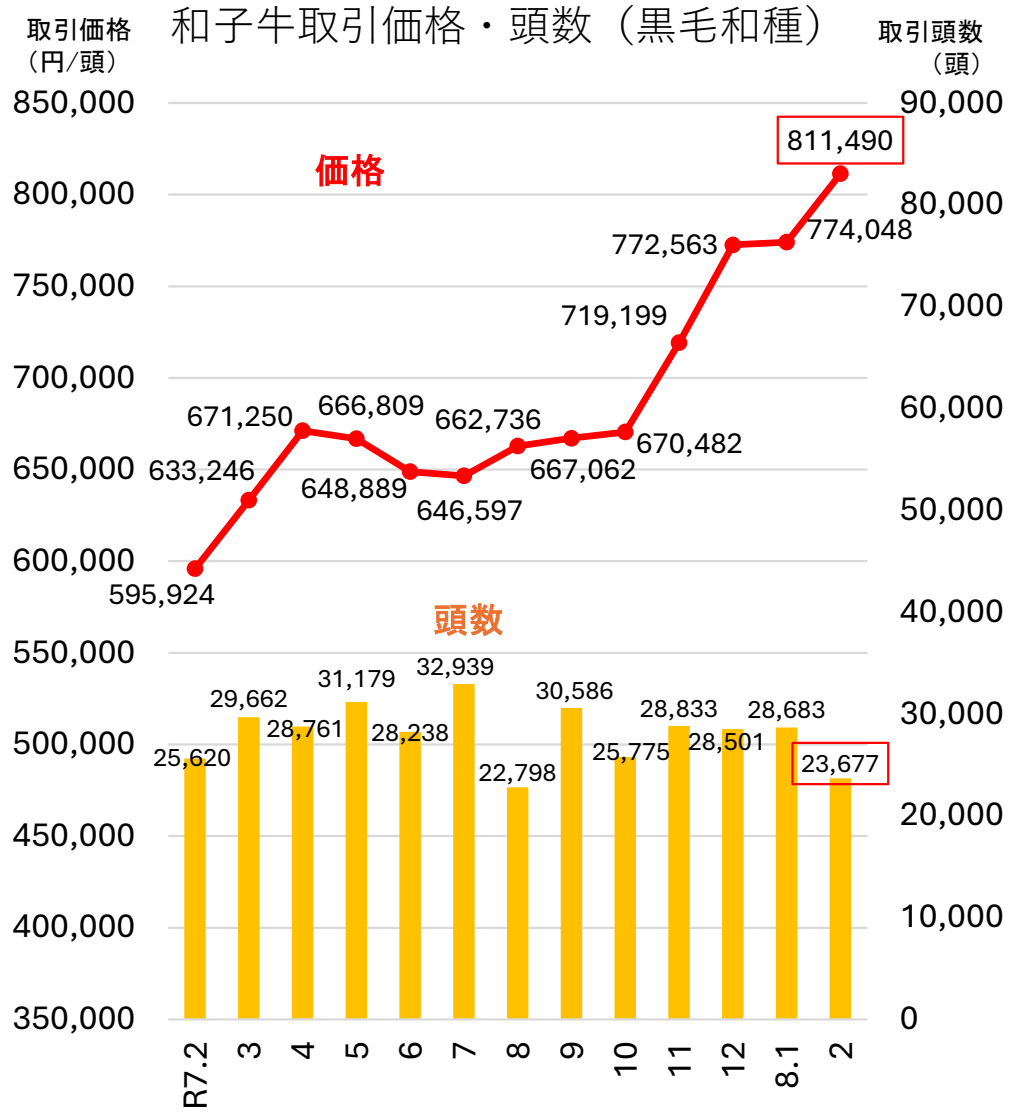
都市別牛肉消費ランキング (一人当たり、年間)

金額		数量	
京都市	13,184円	1	京都市 2,967g
和歌山市	12,640円	2	和歌山市 2,865g
神戸市	11,975円	3	北九州市 2,850g
堺市	11,854円	4	堺市 2,808g
奈良市	11,499円	5	山口市 2,769g
⋮			
札幌市	4,179円	48	福島市 1,214g
福島市	3,921円	49	長野市 1,185g
前橋市	3,842円	50	前橋市 1,087g
盛岡市	3,583円	51	盛岡市 1,064g
新潟市	3,355円	52	新潟市 996g

資料：総務省「家計消費」を基に作成
注：都道府県庁所在市及び政令指定都市の計52都市における2023年～2025年の平均購入金額及び数量を、各都市の3年間の世帯人数の平均で除して算出。

直近の和子牛取引価格及び頭数、和牛枝肉価格

- 和子牛価格は、最需要期である年末に出荷するもと畜となる2～4月頃に最も引き合いが強まる傾向。
- 和牛枝肉価格は、年末年始需要に向けて、11～12月頃に最も引き合いが強まる傾向。

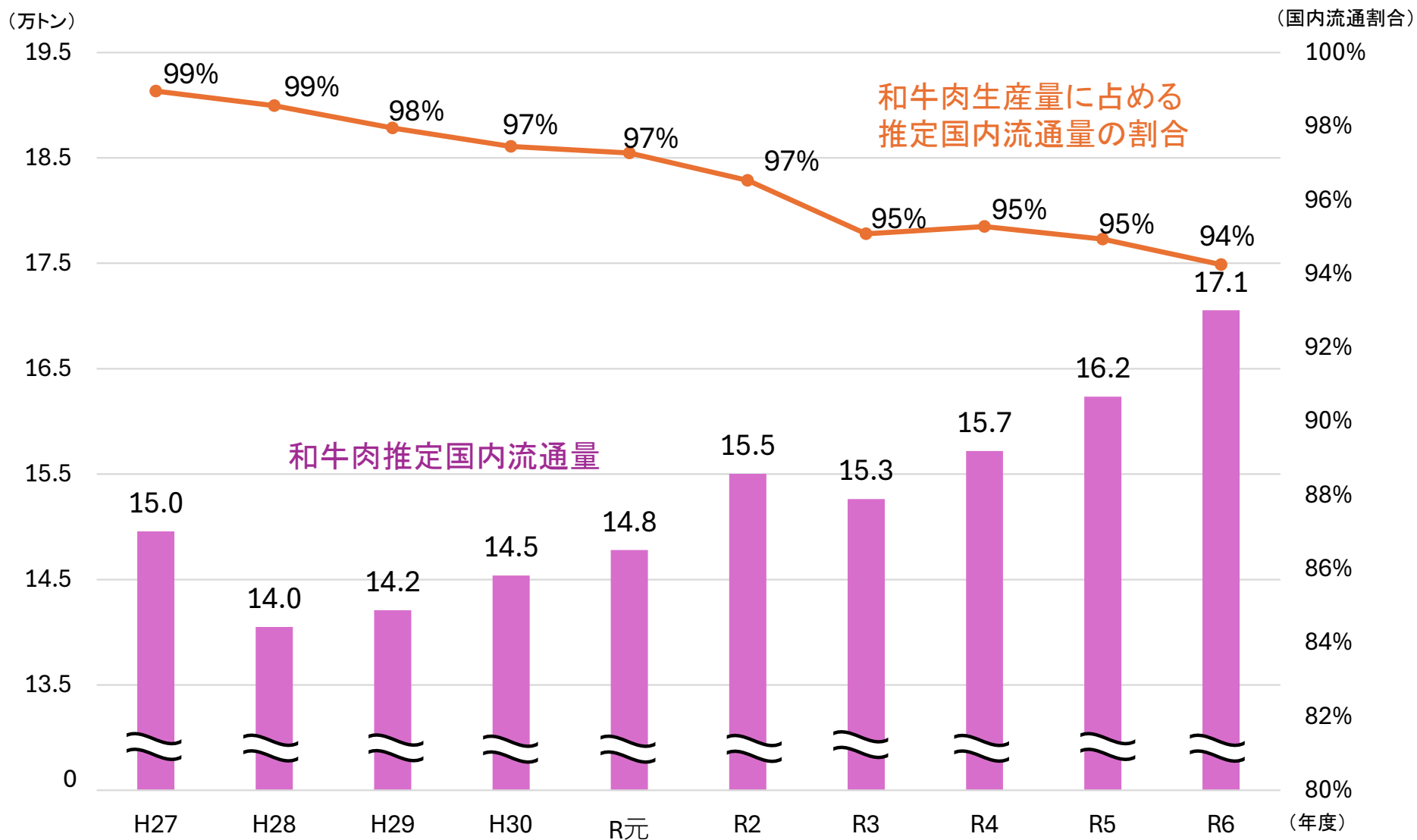


資料: ALIC「肉用子牛取引情報」(令和7年12月以降は速報値)

資料: 農林水産省「畜産物流通統計」(中央10市場計)
令和8年3月は速報値(食肉鶏卵課調べ)

和牛肉の推定国内流通量の動向

- 和牛肉の国内流通量は増加傾向で推移。
- 和牛肉生産量に占める推定国内流通量の割合は、輸出量の増加により、微減傾向。

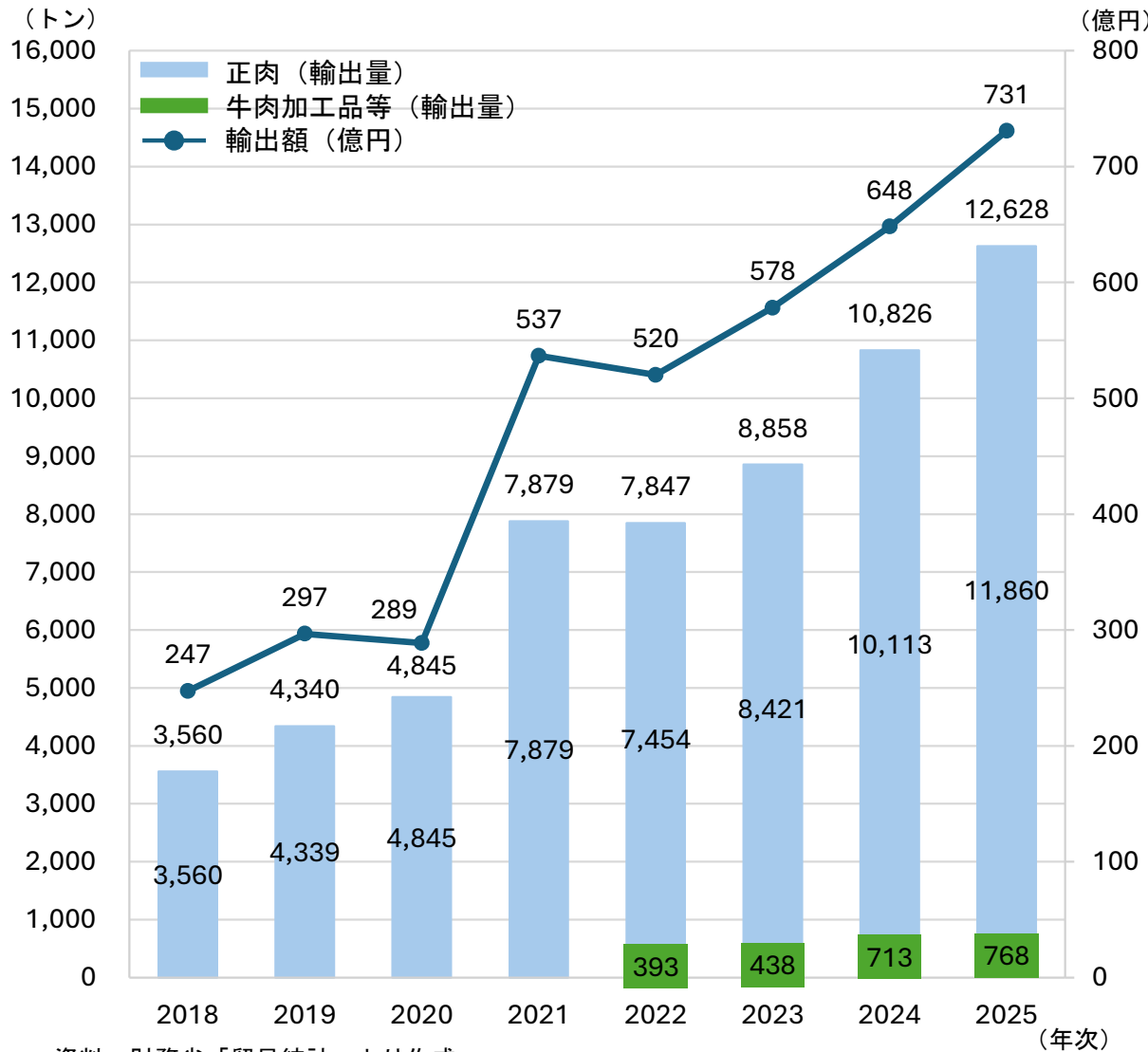


※推定国内流通量=生産量-輸出量

資料:農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」より推計(部分肉ベース)

牛肉輸出の動向

- 牛肉輸出量は増加傾向で推移。2025(令和7)年次の輸出実績は、輸出量は12,628トン（前年比117%）。
- 輸出先は、台湾、米国、香港がそれぞれ約2割を占める。
- 輸出量全体に占める冷蔵牛肉の割合は約46%。またロイン系の割合は約43%。

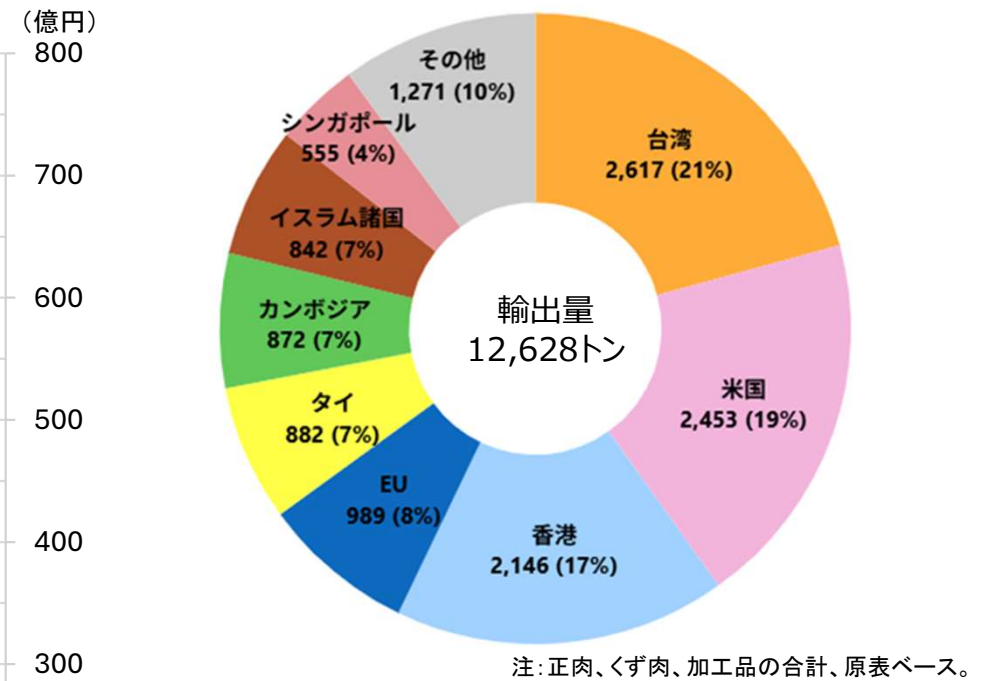


資料：財務省「貿易統計」より作成

注：正肉、牛くず肉、加工品の合計、原表ベース。ただし、2021年以前は加工品を含んでいない。

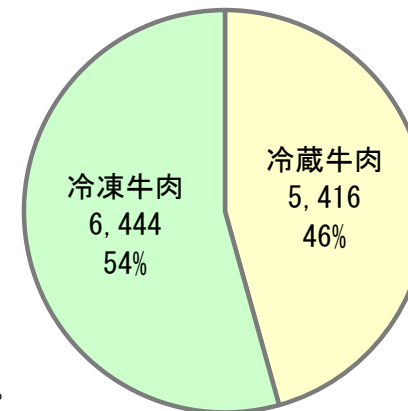
国・地域別

(2025年次、単位:トン)

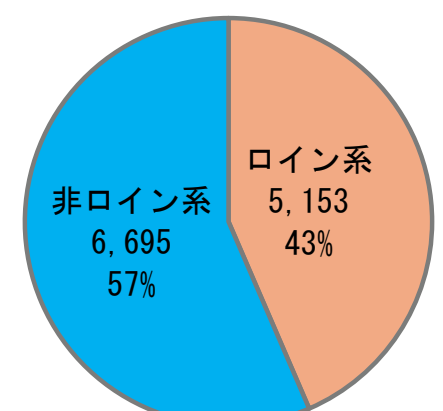


注：正肉、くず肉、加工品の合計、原表ベース。

冷蔵冷凍別

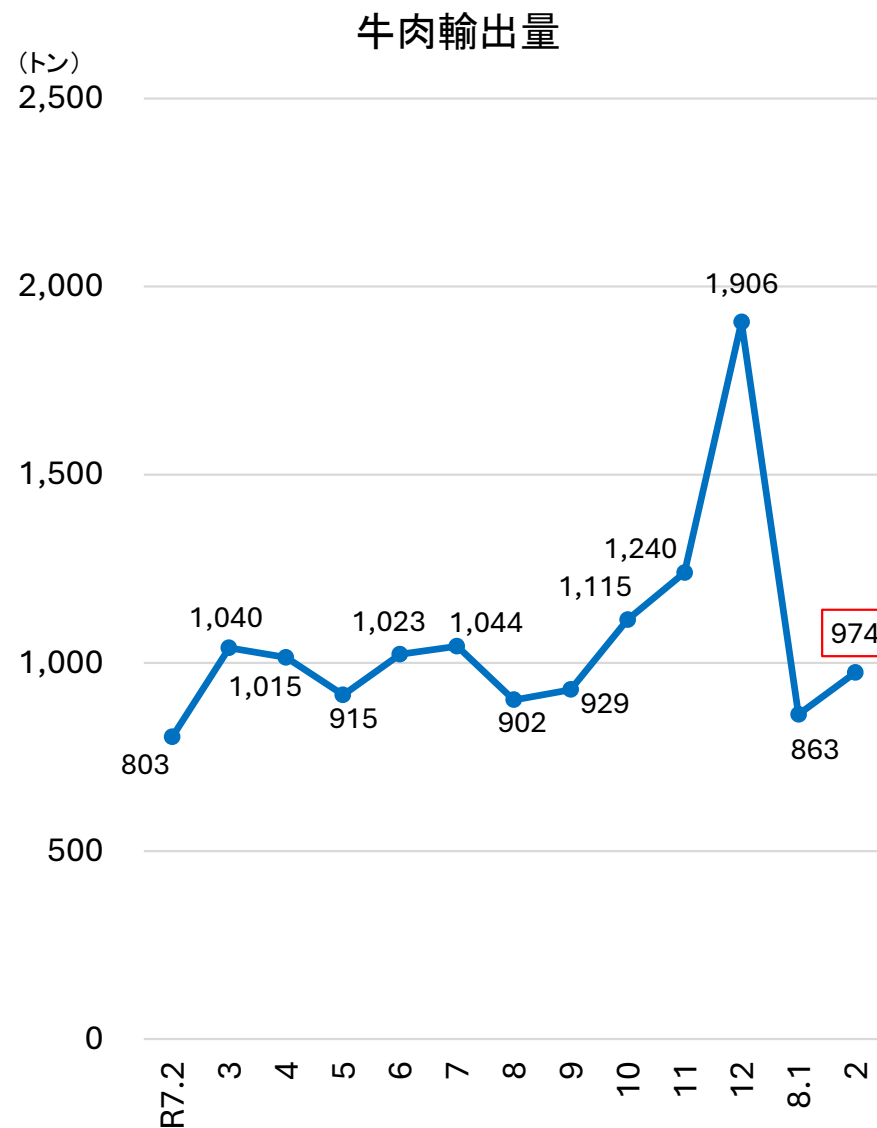
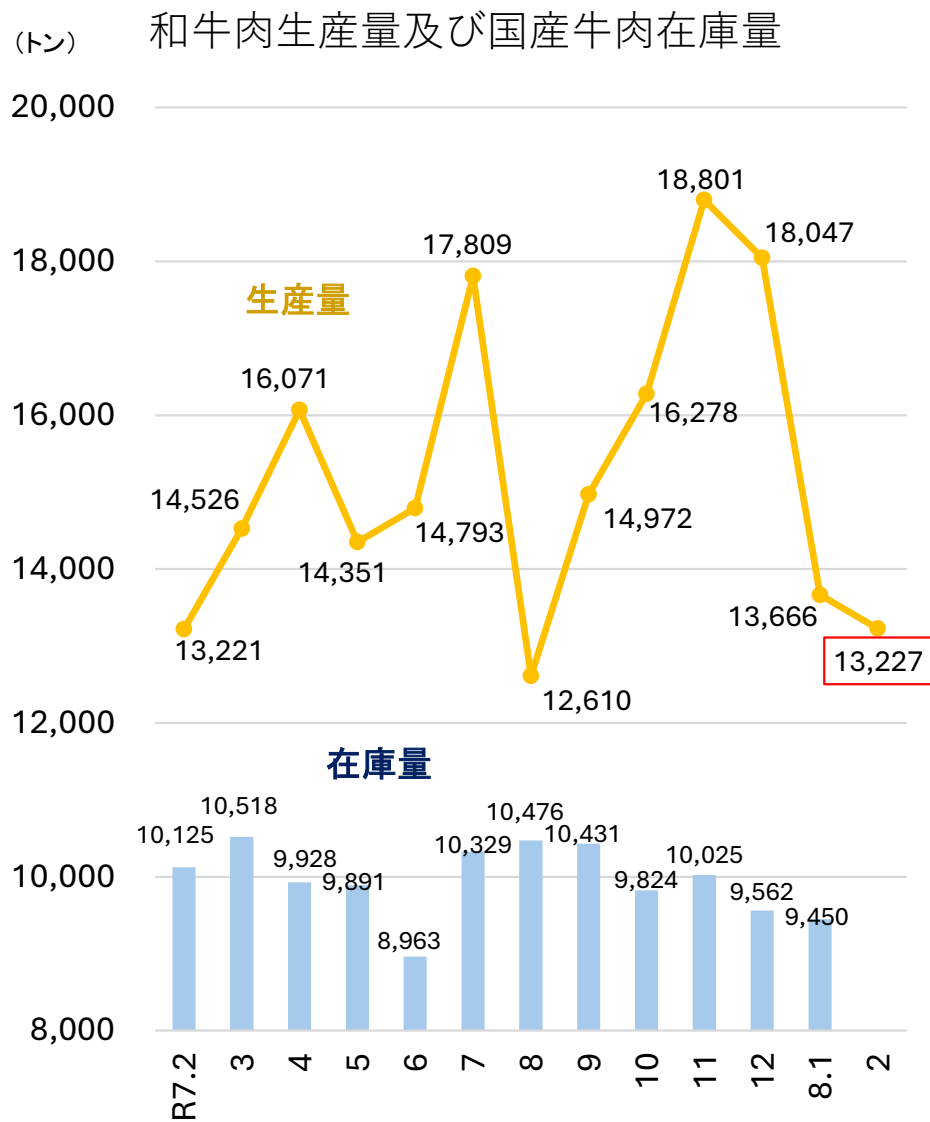


ロイン・非ロイン系別



直近の和牛肉生産量、国産牛肉在庫量、牛肉輸出量

- 国内生産量は、年末需要に向けた11月に最も増加し、年度末や夏休み・お盆の時期にも増加が見られる。
- 牛肉輸出は、年間を通じて安定した取引が行われているが、12月は、次年分の米国低関税枠の早期消化に備え、枠の活用に向けた輸出量の増加が見られる。

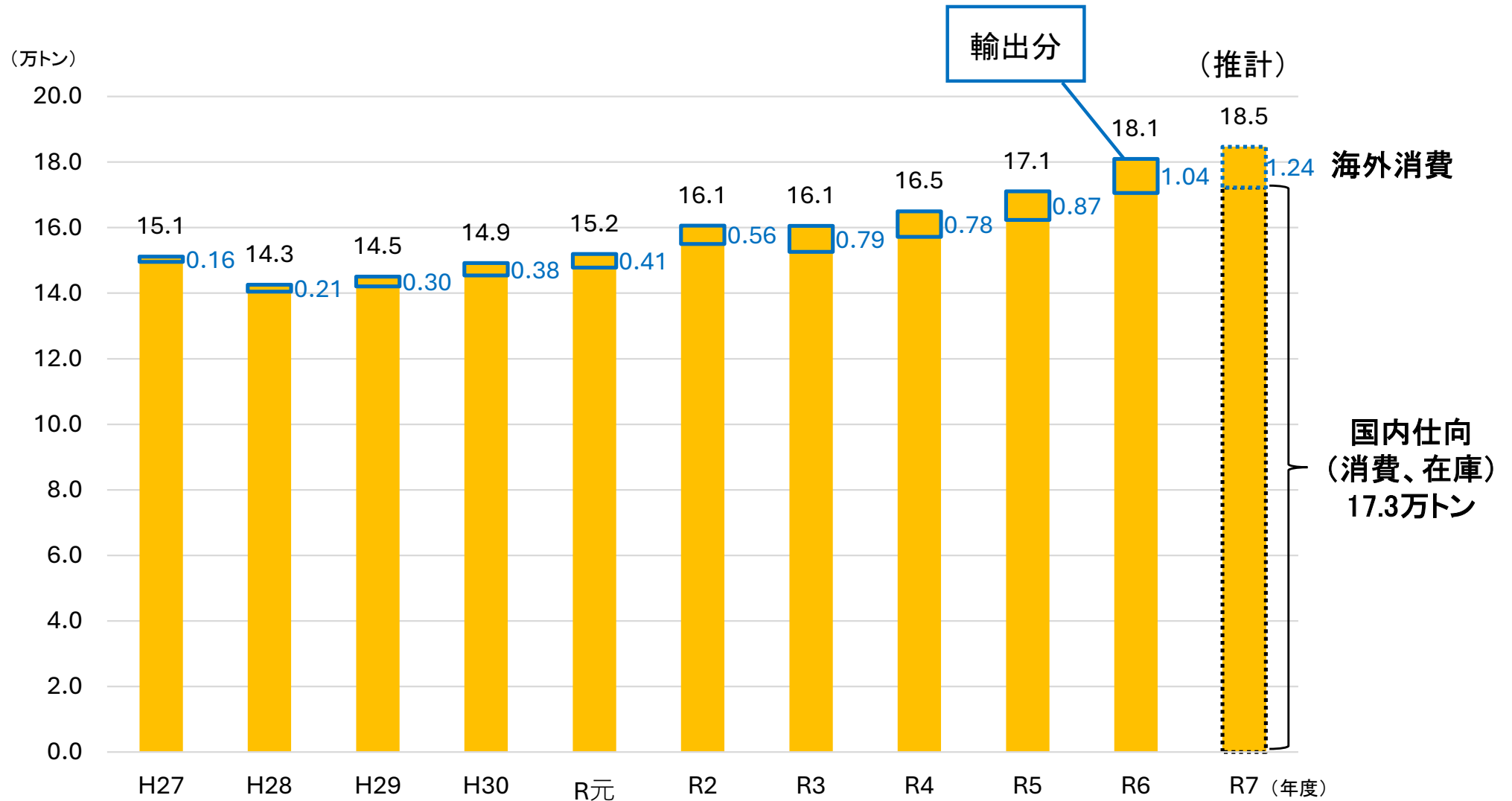


資料：農林水産省「畜産物流通統計」ALIC「牛肉の推定期末在庫（食肉等保管状況調査※）」
 ※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査。
 注：部分肉ベース

資料：財務省「貿易統計」

和牛肉生産量の推移と当面の見通し

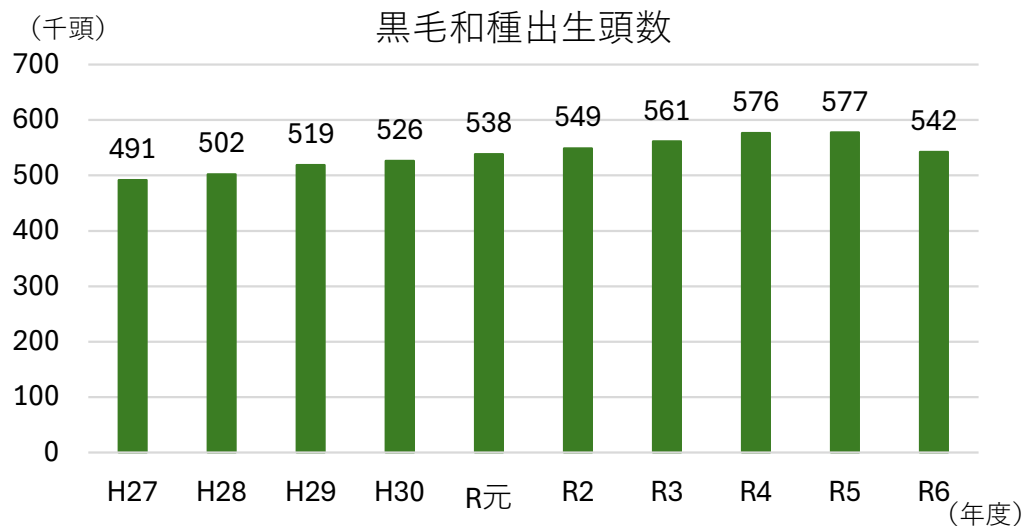
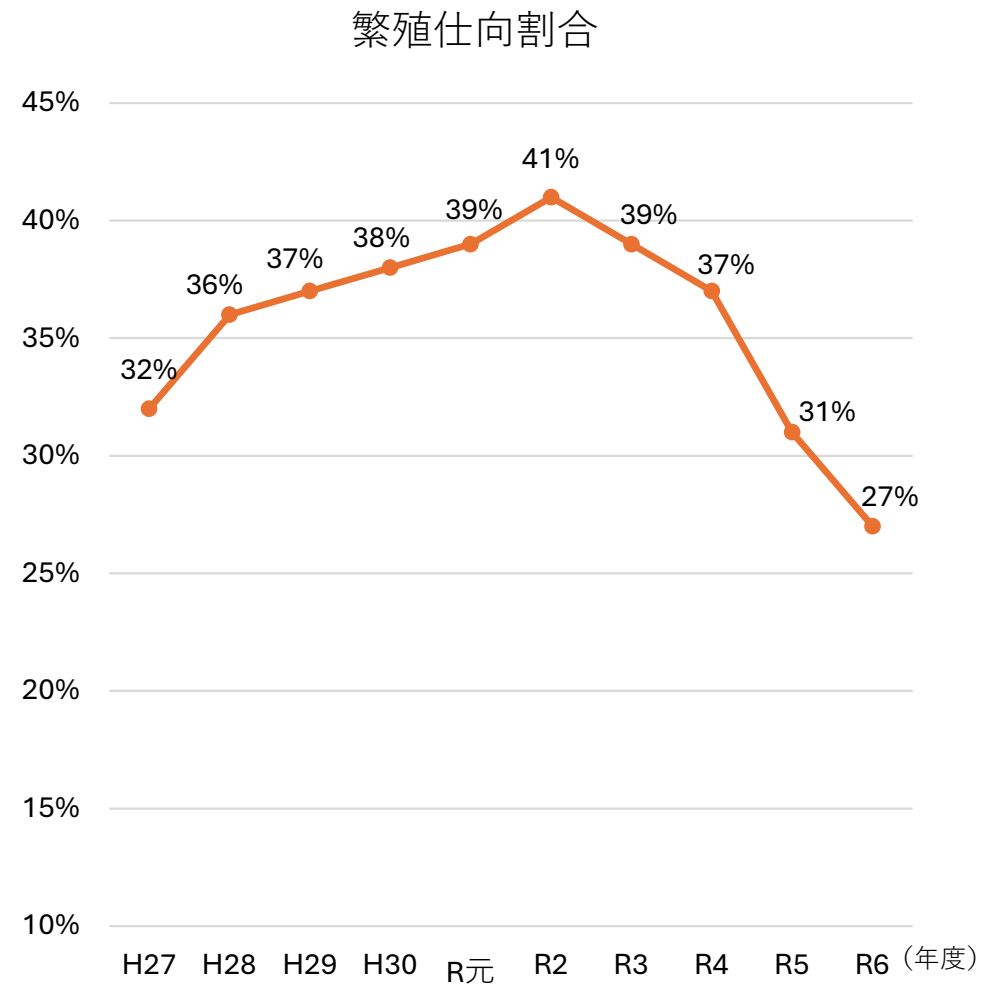
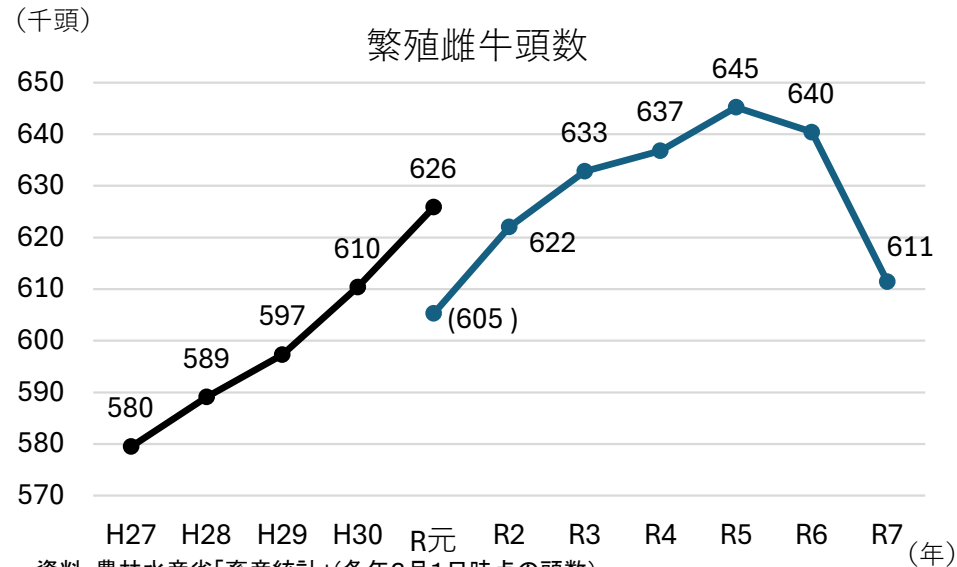
- 和牛肉生産量は増加傾向で推移。
- 和子牛出生頭数等から当面の生産量を推計すると、令和7年度は18~19万ト程度となる見通し。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」(H27~R6)、財務省「貿易統計」、家畜改良センター「届け出情報の統計」、食肉鶏卵課推計(R7) 【R7の推計方法】和牛の出生頭数、と畜頭数、枝肉生産量の実績等から、生産動向を分析して推計。
 ※部分肉ベース

【参考2】繁殖雌牛頭数、繁殖仕向割合、和子牛出生頭数の動向

- 和子牛生産の源となる繁殖雌牛頭数は、令和5年まで上昇傾向で推移してきたが、令和6年から減少傾向。
- 17カ月齢時点での雌牛の繁殖仕向割合は、令和2年度をピークに下落傾向。
- 黒毛和種出生頭数は、近年、繁殖雌牛頭数の増加等に伴い、増加傾向で推移してきたが、繁殖雌牛頭数が減少に転じたこと等により、令和6年度は前年度から減少。



注: 牛マルキンで17月齢時点で肥育牛に登録された頭数をもとに、繁殖仕向雌頭数(雄:雌の出生割合が51:49として肥育仕向雄頭数から同時期の雌頭数を推計し、これから肥育仕向雌頭数を引いたもの)を肥育仕向雌頭数と繁殖仕向雌頭数の合計で除して算出。

和牛肉の需給動向（まとめ）

消費	令和7年11月	12月	令和8年1月
一人あたり牛肉家計購入量(g)	165 (104%)	212 (99%)	142 (94%)

生産	令和7年12月	令和8年1月	2月
肉用子牛(黒毛和種)取引頭数(頭)	28,501 (94%)	28,683 (95%)	23,677 (92%)
価格(円)	772,563 (138%)	774,048 (139%)	811,490 (136%)
<hr/>			
	令和7年12月	令和8年1月	2月
和牛肉生産量(トン)	18,047 (105%)	13,666 (100%)	13,227 (100%)
<hr/>			
	令和8年1月	2月	3月
和牛枝肉卸売価格(全規格)(円/kg)	2,351 (102%)	2,446 (103%)	2,545 (108%)
<hr/>			
	令和7年11月	12月	令和8年1月
国産牛肉在庫量(トン)	10,025 (92%)	9,562 (89%)	9,450 (93%)

輸出	令和7年12月	令和8年1月	2月
国産牛肉輸出量(トン)	1,906 (104%)	863 (124%)	974 (121%)

資料:総務省「家計消費」、ALIC「肉用子牛取引情報」「牛肉の推定期末在庫(食肉等保管状況調査)」、農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」

注:()内は対前年同月比

肉用子牛取引価格及び頭数の令和7年12月以降は速報値

和牛枝肉卸売価格の令和8年3月は速報値(食肉鶏卵課調べ)